

第7章 生体腎移植における腎提供の既往

1. 調査の背景

わが国において、年間に実施される腎臓移植のほぼ90%が生体腎移植である¹⁹⁾。慢性的なドナー不足のため、高齢や高血圧や糖尿病を持つマージナルドナーからの腎移植も行われている。生体腎移植において、ドナーの安全性は非常に重要である。日本臨床腎移植学会・日本移植学会の報告では腎移植後7年間で透析導入に至ったものは1または2例と報告されているが、回答率が高くないという問題がある¹⁹⁾。腎移植ドナーの安全性は腎代替療法の選択にも影響を与える。このため、2019年から慢性維持透析患者を対象に、患者自身が過去に腎移植ドナーとして自身の腎臓を提供した既往があるか否かの調査を開始した。

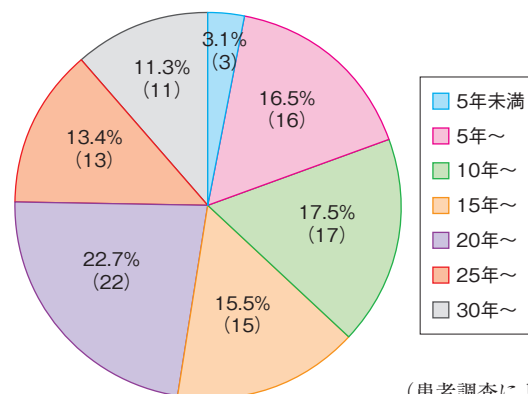
2019年調査は腎提供に関して初めての調査だったため、なんらかの誤解をして回答された患者が含まれた可能性がある。例えば、腎移植ドナーとしての腎提供ありと回答した181人のうち21人は腎提供年が導入年以降であった。集計対象からは除外したが、2020年調査では誤回答を防ぐために、腎提供が導入年以降の場合は入力用Excelファイルでエラー表示するようにした。また、2019年調査では腎提供の既往ありが複数人いる施設にのみ問い合わせを行ったが、2020年調査では腎提供に既往ありと回答があった全施設に、腎提供の有無、腎提供年月の回答に間違いはないか問い合わせを行った。回収時、腎提供の既往ありと記載のあった175施設616人、のうち、163施設604人、から回答があった。その結果、既往なしが507人、既往ありが95人、既往不明が2人となった。確認がとれなかった12人については既往ありのままとした。

2. 腎提供の有無

2020年末に慢性維持透析を行っている336,759人のうち、247,691人（73.6%）において腎提供の有無に回答が得られた。この247,691人のうち107人（0.043%）が腎移植ドナーとしての腎提供ありと回答した（補足表40）。2019年末の160人より減少しているが、前年より厳しく確認を行ったためと思われる。

3. 腎提供から透析導入までの期間

腎提供年月または腎提供年は107人のうち97人（90.7%）において回答が得られた。腎提供から透析導入までの期間の平均は19年2ヵ月（±9年7ヵ月、標準偏差）であった。腎提供から透析導入までが5年未満だったものが3人（3.1%）、5年以上10年未満だったものが16人（16.5%）であった（図39、補足表41）。ただし、97人中53人において腎提供月が不明であったため、この53人の腎提供が行われた暦月を便宜的にすべてその年の6月と仮定して計算した。2019年末は5年未満だったものが13人（12.5%）、5年以上10年未満だったものが19人（18.3%）であったため、とくに5年未満のものが大幅に減っているが、2019年末の調査ではとくに5年未満のものに、何らかの誤解をして回答されたものが多かったのかもしれない。5年未満が3人であることは、先ほどの日本臨床腎移植学会・日本移植学会の報告¹⁹⁾と近い値である。



（患者調査による集計）

図 39 腎提供ありの患者 腎提供から透析導入までの期間, 2020

4. 性、原疾患

2020年調査では男女別と原疾患別のデータも公開した。腎移植ドナーとしての腎提供ありと回答があった107人のうち、男性57人（53.3%）、女性50人（46.7%）であった（補足表41）。原疾患は、慢性透析患者の主要な原疾患である、糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎、腎硬化症と、それ以外の原疾患、不明で分けたが、慢性透析患者全体の割合とは異なり、糖尿病性腎症24人（22.4%）、慢性糸球体腎炎26人（24.3%）、腎硬化症22人（20.6%）といずれも同じぐらいの割合であった（補足表42）。